

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二七年一月～一二月)

1 熊谷市史編さん委員会報告

平成二六年度第二回 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二七年三月二五日(水)午後二時～

場所 熊谷市立商工会館 二・三会議室

【概要】

1 審議事項

① 「市史編さん大綱」の一部変更について(答申)

- ・平成二六年八月五日の第一回市史編さん委員会において教育委員会より諮問が行われ、各専門部会や市史編集会議において協議を行った。これらを受け作成された答申案について審議を行い、全回一致にて承認された。
- ・市史編さん大綱の変更点については以下のとおり

(大綱については『熊谷市史研究』創刊号参照)

発行期間を平成一九年～平成四四年とする。

- ・右に従い、刊行計画、年次計画を以下のとおり変更する。

【刊行計画】

- ・報告書について、中世石造物を二冊、仏像・仏画を三冊とする。新たに「熊谷市史報告書」を刊行する。

【年次計画】

- ・資料編3～5(近世―刊行年をそれぞれ平成三二年・三五年・三八年とする。)
- ・資料編6～8(近代・現代)―刊行年をそれぞれ平成三〇年・三四年・三七年とする。
- ・通史編1～3―刊行年をそれぞれ平成二九年、四〇年・四一年とする。

- ・別編（自然編）3（地形地質）、4（動物）、5（植物）―刊行年をそれぞれ平成三九年、四二年、四二年とする。

- ・別編6（地誌）―刊行年を平成四三年とする。
- ・普及版―刊行年を平成四四年とする。

- ・報告書（中世石造物）―刊行年を平成三〇年・三三年とする。

- ・報告書（仏像・仏画）―調査期間を平成三九年度までとし、一冊目の刊行年を平成三一年とする。

- ・資料の増大に伴う収蔵スペースや年次計画延長に伴う編集委員の後継問題について、十分な対策をとるよう付帯意見が付された。

※なお、答申については、三月三十一日の教育委員会に提出され、大綱の一部変更が行われた。

②別編2 妻沼聖天山の建築の刊行について

- ・発行部数（三千部）について、増やすべきとの意見があった。

2 報告事項

①熊谷市史編集会議・専門部会活動報告について

- ・各委員、事務局よりそれぞれの専門部会について

の報告を行った。

②事務局が行った基礎調査等について

③刊行物の販売、広報活動等について

④「資料編1 考古」の刊行について

なお、任期満了に伴い、平成二七年八月一日より、次の方々に市史編さん委員を委嘱した。

閑野 高広（市議会議員）

松本 富男（市議会議員）

小野 美代子（文化財保護審議会委員）

飯塚 好（知識経験を有する者）

柿沼 幹夫（知識経験を有する者）

北村 行遠（知識経験を有する者）

宮瀧 交二（知識経験を有する者）

村田 安穂（知識経験を有する者）

平井 加余子（市民団体の代表）

野口 幸雄（市民団体の代表）

鶴田 幸子（公募による市民）

II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二七年三月一〇日(日) 午後二時
場所 熊谷市役所 会議室三〇二

【概要】

1 経過報告

- ・平成二六年度編さん委員会報告
- ・平成二五年度編集会議報告

2 市史編さん大綱の変更について

答申案について審議を行い、以下の意見が出された。

- ・発刊期間が延びるので、調査史料の間口を広げるべきである。また、新たな史料調査についても積極的に着手すべきである。

- ・中世石造物や仏像・仏画の報告書については、刊行が「通史編1」発行の後になるが、成果を通史編にも反映できるように配慮が必要である。

- ・自然編については、刊行年が後になることから、他団体との連携も考慮に入れ、データ等を収集すべきである。

以上の意見を踏まえて、答申案についての賛同を得た。

3 各専門部会活動報告

4 事務局が行う基礎調査等の活動報告

5 啓発活動について

6 平成二七年度の計画について

7 「別編2 妻沼聖天山の建築」の編集について

8 「資料編1 考古」の刊行について

9 熊谷市史研究、熊谷市市報告書について

(文責 蛭間 健悟)

III 専門部会報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

一 考古資料編の刊行

平成二七年三月二五日付をもって、『熊谷市史 資料編1 考古』が刊行された。

平成二〇年度以来、六年の歳月をかけて調査・執筆・校正を行い、完遂することができた。この場を借りて、執筆者の各委員、資料所蔵者等関係各位のご尽力、ご協力に厚く謝意を表したい。

二 通史編上執筆に向けての作業開始

1 担当（考古・古代・中世）専門部会長会議の開催

①平成二七年三月五日（木）熊谷市役所三階会議室三〇二

- ・スケジュールの確認 平成二七年度調査執筆、平成二八年度執筆・編集、平成二九年度校正・刊行
- ・章・目・節・見出しの検討

②平成二七年八月四日（火）熊谷市立図書館四階第二講座室

執筆期限 平成二八年三月から連休明け

執筆要項について 章・節・見出し、小見出し。

2 通史編上巻執筆者会議の開催 平成二七年一月二二日（日）熊谷市立図書館第二講座室

考古部会長（柿沼）が旧石器時代から古墳時代までの概要・コンセプトを説明、その後、吉田稔、関義則専門調査員から、旧石器・縄文・弥生・古墳時代の執筆主旨を説明。なお、考古部会の井上尚明専門調査員は古代部会、浅野晴樹専門調査員は中世部会に加わり、考古学が得意とする生活と文化の項を執筆する。

三 考古専門部会の開催

①平成二六年度第三回 平成二七年度一月二五日（日）

資料編1の口絵写真、執筆者全員の校了確認。『通史編上』の章目立ての準備。

- ②平成二七年度第一回 平成二七年五月一〇日（日）通史編執筆に向けての協議。
- ・体裁、執筆要項について。

・新たな調査として、レプリカ・セム法による弥生時代の穀物栽培の特定。そのため、新たに特別調査員として遠藤英子氏に加わってもらおう。

③平成二七年度第二回 平成二七年九月一三日（日）市立図書館四階第二講座室

・執筆要項の確認、章目立て・コラムの頁数等の確認。
・追加・補足調査

弥生土器のレプリカ・セム法による穀物同定

縄文中期土器の種子痕同定、河川の流路に関する国土基本図による考察については、要検討。

四 弥生土器の穀物圧痕のレプリカ採取、穀物同定調査の実施

遠藤英子特別調査員によるレプリカ採取とセムによる同定を行った。実施遺跡は、横間栗、飯塚北、古宮、北島2次、前中西2次、円山、白草。なお、池上遺跡は、実施済みである。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

平成二七年度の古代専門部会は、いよいよ平成二九年度に迫った『熊谷市史 通史編・上巻（原始・古代・中世）』（以下、『通史編』とする）の刊行に向けての準備作業を継続した。

年間を通して部会構成員のそれぞれが、『通史編』の刊行に向けて、当該地域の古代史に関する資料・情報の収集及び、これまでに蓄積された研究成果の把握に努めた。

まず五月一五日には大東文化大学板橋キャンパスにおいて部会会議を開催し、昨年度に決定した目次案の再検討作業を実施した。

また、八月四日には、熊谷市立熊谷図書館会議室において考古専門部会及び中世専門部会との合同部会長会議を開催し、各部会が決定した目次案を上手く接続させるための調整作業を実施した。また、三部会の全構成員が執筆作業に入る前に、相互に持つ情報を共有し、意見交換を行うことの必要性も確認された。

これを承けて、一月二二日には熊谷市立熊谷図書館会

議室において三部会の合同会議が開催され、各執筆者が個別に執筆の方針・概要等を紹介した後、相互に質問や意見交換を行うことが出来た。席上、文献史料の不足から十分な通史叙述が望めないとの声も出されたが、文献史料が現存しないことは、必ずしも当該地域に歴史すなわち人々の暮らしが存在しなかったことを示すものではなく、考古資料や古美術資料といった諸資料がその穴を埋める場合もあり、執筆担当者は自らの専門分野に籠城することなく、他の専門分野の研究成果をも十分に吸収し、時には隣接地域における研究成果をも駆使してこの熊谷地域の通史叙述に臨むことが必要であると確認した。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 専門部会会議の開催

① 第一回専門部会会議

(平成二十七年六月二八日、市立熊谷図書館)

「市史編さん大綱の変更」に伴う刊行年等の変更について事務局より説明があった。これに拠ったスケジュールの確認を行った。

次いで、本の体裁や編集事項、表記方法等について審議を行った。また、章・節・項の検討を行い、全体の大まかな枠組みを決定した。さらに、具体的な歴史事象の取扱い方についての意見交換等を行った。

② 第二回専門部会会議

(平成二十七年一月二三日、市立熊谷図書館)

通史編上巻執筆者会議終了後、中世担当の編集委員が集まり検討を行った。

本の体裁については、一つの見出しにつき六〇〇字×一千字程度と幅を持たせ、二見出しに一つ程度、写真や図などを入れることとした。

見出し案をつきあわせたことで生じた問題点等についての検討を行った。多くの小武士団が乱立することが中世熊谷の特徴であり、全体を通してのコンセプトとなるであろうことを確認した。

今会議以降、各委員が見出し案の修正等を行った。

2 中世石造物調査

① 現地調査

市域全体を対象とし、未調査地点と再調査地点の現地確認を行った。編集委員・協力員による現地調査を終了し、第一次集計データの結果等から、報告書事項の具体的な検討に入っている。なお、事務局で集計した全体の概要は、全四八三地点で、板碑一六三六基、五輪塔一一七九点、宝篋印塔三九四点（部材を含む）となっている。

六月以降、再調査及び未調査地点約四〇力所の再確認を事務局で進め、所在確認のできた約五〇基を追加した。また、逸亡資料については、小沢國平寄贈資料（熊谷図書館蔵）の古写真などから利用できるものを検討し加えた。

② 調査会議

ア. 第一回会議（平成二十七年四月二六日）

報告書の体裁・刊行計画等について協議を行った。

イ. 第二回会議（平成二十七年九月二六日）

第一次集計データを配布後に開催した。報告書の体裁と報告事項について検討した。また、全編集委員・協力員が、報告事項の執筆にあたることとした。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二十七年の主な活動として、平成二六年度第三回部会、平成二七年度第一回部会、第二回部会を開催した。平成二七年度はあと一回の部会を予定している。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二六年度第三回近世部会（平成二十七年三月一三日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、妻沼小島の野村弘家文書、上根の天性寺文書の二件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ三三件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も多いものの、専門部会の要望に応えつつ優先順位の高い文書から整理をすることとなった。新たに受け入れをした文書群として、下奈良の小林武雄家文書ほか七件の説明があった。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、古文書調査の進捗状況と合わせて、より具体的な構成案を提示する方向で作業を進めることとなった。

・来年度の調査について

遠隔地の調査として、長崎県島原市の松平家文書の調査について提案がなされ、次回の部会までに所蔵先を含めて調査の具体案を検討することとなった。

・県立農業大学校への出講について

近世部会宛に、農業大学校で開講している「郷土史」に出講依頼があり、石山委員が担当する方向で調整することとなった。

平成二七年度第一回近世部会（平成二七年七月一五日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、玉井の井上紘子家文書はじめ五件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ三七件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も多くなってきたが、点数も相当多いため専門部会の要望

に応えつつ調査をおこなっている。新たに受け入れをした文書群として、久下の戸森茂秋家文書ほか四件と、古書店よりの購入文書の説明があった。このほかに旧大里町所蔵の村史編さん資料が見つかり、その整理についての説明がなされた。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、担当者によってそれぞれの進捗状況の説明があった。また、細野委員より、資料編（妻沼）について、聖天堂に関わる史料と、編さん中の建築編との重複を避け、なるべく建築編を前提とした構成で調整するよう提案があり、その方向で調査を進めることとなった。

・古文書所在調査について

遠隔地の調査計画として、長崎県島原市の松平家文書について、事前に埼玉県立文書館や国会図書館などで調査を行い、本光寺・常盤歴史資料館で閲覧及び撮影をおこなうことが了承された。

・県立農業大学校への出講について

前回の部会で、依頼のあった「郷土史」への出講について、石山委員が担当することとなった。

平成二十七年第二回近世部会(平成二十七年一〇月二十九日)

五 近代専門部会

・古文書調査について

近代専門部会長 村田 安穂

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書はじめ三九件のほか、旧大里町の村史編さん資料の説明があつた。新規に受け入れをした文書群では、三件の説明があつた。

・古文書所在調査について

遠隔地の調査として、忍領関係で常盤歴史資料館への調査日程が、二月二六日～二八日の三日間と決定された。

・通史編の体裁について

通史編上巻の執筆要項の作成にともない、近世部会においても、時代区分等の基本的事項の確認および検討がなされ、資料編の構成と合わせて継続して検討する方向で部会内の了承を得た。

1 平成二十六年第二回近代専門部会会議

(平成二十七年三月一五日、妻沼展示館)

市史編さん大綱の変更案を事務局より説明がなされ、資料編(妻沼地域)は部会要望通り変更なしで、資料編(熊谷地域)、通史編下(近代・現代)は刊行年度が延長されたことを承認した。農業大学校授業依頼を受け、部会では重田正夫委員が担当することで了承した。通史編の体裁について事務局より説明があり、審議を行い部会での意見を事務局に提示した。各委員の活動状況を報告しあい、情報の共有を図った。事務局活動報告を受け、元素稜関係文書の史料集の解説については、担当の老川慶喜委員へ相談する旨を指示した。午前中は希望者による妻沼展示館での資料調査を実施した。

2 平成二十七年第一回近代専門部会会議

(平成二十七年六月二〇日、本庁舎)

各委員より推薦のあつた特別調査員について審議を行

い、三名の委嘱について部会です承した。資料編（妻沼地域）の刊行日程案について審議を行い、史料選定を早急に実施するべく、各委員より史料リストを事務局に提出することとした。熊谷市史料集二の進捗状況報告を事務局より受け、凡例、内容細目について検討を行った。各委員より担当分野の進捗状況を報告して、情報の共有を図った。事務局活動報告を受け、史料リスト作成のため諸家文書目録の最新版作成を事務局に要望した。午前中は希望者による妻沼展示館での資料調査を実施した。

3 平成二七年度第二回近代専門部会会議

（平成二七年一月三日、熊谷図書館）

資料編目次に沿って作成した史料リスト案をもとに審議を行った。事務局へはリスト体裁の要望を伝え、部会では収集済の写真をもとに、選定史料、目次項目の精査を実施することとした。特別調査員三名の担当箇所についても審議し、各専門分野を担当することとした。また、資料編刊行日程について審議を行い、筆耕依頼にむけて筆写要項の作成を事務局に依頼した。熊谷市史料集二の進捗状況及び、事務局の活動報告を受けた。

六 現代専門部会

現代専門部会長代理 高橋 信之

1 平成二六年度第三回現代専門部会会議

（平成二七年三月八日、妻沼展示館）

事務局より今後の刊行計画について、現代部会関係では資料編（妻沼編）は従来通り刊行することが、資料編（熊谷編）及び通史編は刊行年を一年延期する案を考えているとの報告があった。引き続き元妻沼町長増田家の資料について概要の説明を受けた。各委員の調査進捗状況の報告の後、今後の調査課題について意見交換し、各種統計資料の扱いについては、その処理方法等について今後も検討して行くことを確認した。農業大学から依頼の講師派遣については、次回に決定することにした。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

2 平成二七年度第一回現代専門部会会議

（平成二七年四月二六日、妻沼展示館）

通史編体裁の審議を行い、部会での意見を事務局に具

申しした。農業大学校から依頼を受けた講師の件は、高橋信之委員が担当することで了承した。各委員の活動状況を報告しあい、情報の共有を図った。事務局活動報告では、本庁舎から移管され廃棄となった永年保存文書について説明があり、永続的な保管場所の重要性が指摘された。また、新聞記事調査についても、事務局に対して継続的調査のお願いをした。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

3 平成二七年度第二回現代専門部会会議

(平成二七年七月五日、妻沼展示館)

資料編(妻沼地域)刊行日程の説明を受け、史料のカード化や、筆耕依頼についての協議をした。本年度は資料編(妻沼地域)掲載史料の提出を行い、史料決定の段階で解説頁数を確定できるようにしたい。新聞記事調査については、記事目録刊行目安について協議を行い、資料編(妻沼地域)にも活用したいとの意見が出された。事務局活動報告を受け、農地改革に関連のある諸家の連絡を事務局に依頼して、調査することとした。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

4 平成二七年度第三回現代専門部会会議

(平成二七年一〇月一八日、妻沼展示館)

資料編の調査カードの審議について協議を行い、事務局案のカードを印刷して次回会議までに準備することが承認された。史料筆耕に関しては、委員で担当する史料・解説部分もあるため、筆写・執筆要項の作成を事務局に依頼した。各委員担当分野史料の提示を行い、情報の共有を図った。事務局活動報告を受け、部会で調査した刊行物、大里から移管された農地解放文書の整理・保存をお願いした。また、担当分野ごとに資料収集の依頼を行うこととした。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

七 妻沼聖天山の建築専門部会

平成二七年度は、本専門部会の担当巻にあたる『熊谷市史別編2妻沼聖天山の建築』の刊行年度である。部会活動も、その執筆・編集などの作業を中心に進められた。

以下に、開催した会議・打ち合わせを示す。

・平成二七年三月一九日 第三回専門部会会議

(立正大学品川キャンパス)

・平成二七年四月五日 第一回建築部門担当者打合せ

(鴻巣市)

・平成二七年四月二八日 第一回専門部会会議

(立正大学品川キャンパス)

・平成二七年五月一三日 第二回専門部会会議

(立正大学品川キャンパス)

・平成二七年五月二七日 第三回専門部会会議

(立正大学品川キャンパス)

・平成二七年八月二六日 第四回専門部会会議

(立正大学品川キャンパス)

・平成二七年一二月二七日 第二回建築部門担当者打合せ

(鴻巣市)

専門部会会議を五回、打合せを二回行った。本巻は、建築担当者(内海勝博専門調査員)と歴史担当者(石山秀和専門調査員・細野健太郎専門調査員)で分担執筆し

ており、合同で会議を行うこともあったが、今年度は特に個別に実務的な打ち合わせをする機会が多かった。

建築担当者は、わかりやすい構成と文章について検討し、写真や図版の配置などを相談した。一方、歴史担当者は、別冊史料集の構成を検討するとともに、各章節立て間の調整などを検討した。年度の後半は、各担当ともに、執筆・校正作業の進捗状況を確認し、個別の内容について踏み込んで調整をした。校正作業も佳境にさしかかっている。

なお、当専門部会の大河直躬専門部会長が、平成二七年九月一三日に享年八六歳でご逝去された。亡くなる数ヶ月前に、体調不良を押して原稿を御執筆いただき、御提出いただいた。当巻の序論として掲載される予定である。

また、市史編さん事業のみならず、歓喜院聖天堂の保存修理委員会の委員長を務めていただくなど、長年につわりたり当市の事業に御指導・御尽力いただいた。長年のご功績に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りしたい。

(文責 市史編さん室事務局)

八 仏像調査専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

平成二四年より調査を開始し、平成二七年は四年目となる。今年は、旧熊谷市域北部を中心とした地域の調査を行った。また、妻沼歡喜院（三日間）や下奈良集福寺（二日間）など大規模な寺院の調査も行った。月に一回、一日一〜三か寺のペースで調査を行い、合計一〇日間、一二の寺院と御堂、集会所等を訪問した。このほか、七月六日には、大規模な調査が予想される常光院、一乗院に事前の調査を行った。

調査内容は、写真撮影及び寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成である。一年間で約四〇〇点の仏像・仏画等の調査を終えることができた。

なお、調査前の各寺院との交渉は坂東隆秀委員、調査後の調査カードと写真の整理は西口由子委員が行った。

平成二七年に実施した調査は以下の通りである。

- 1 玉井玉井寺（二月一八日）
- 2 中奈良國性寺（二月一八日）
- 3 下奈良集福寺①（祖師堂・仏殿）（三月一六日）

- 4 村岡集会所（旧観音寺）（四月二七日）
- 5 下川上自治会館（四月二七日）
- 6 下奈良集福寺②（本殿）（五月二九日）
- 7 妻沼歡喜院①（六月一七日）
- 8 下奈良観音寺（七月二九日）
- 9 下奈良利永寺（七月二九日）
- 10 四方寺蓮華院（七月二九日）
- 11 村岡高雲寺（九月二八日）
- 12 妻沼歡喜院②（二〇月一四日）
- 13 妻沼歡喜院③（二月一八日）
- 14 上之一乗院（二月一四日）

なお、就職等により数名の協力員が辞任したため、今年度より、大海奈緒子氏、萬納恵介氏、久我理子氏、斉藤汐里氏を新たに協力員に委嘱した。

最後に、調査先寺院・自治会関係者各位の多大なる御協力に対して、心よりお礼申し上げます。